

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:94.

脈管疾患におけるチーム医療の展望～重症虚血肢の治療における看護師の役割～

日野岡 蘭子, 古屋 敦宏, 内田 大貴, 菊地 信介, 柝窪 藍,
竜川 貴光, 鎌田 啓輔, 東 信良

脈管疾患におけるチーム医療の展望 ～重症虚血肢の治療における看護師の役割～

日野岡蘭子¹⁾ 古屋敦宏²⁾ 内田大貴²⁾ 菊地信介²⁾ 柝窪藍²⁾ 竜川貴光²⁾ 鎌田啓輔²⁾ 東信良²⁾

1) 旭川医科大学病院看護部 2) 旭川医科大学外科学講座血管外科

チーム医療の重要性が指摘されて久しい。患者を取り巻く多職種医療者が、それぞれの専門性を発揮し治療から生活を取り戻す支援までシームレスに行うという概念は周知されつつある。

当院血管外科の重症虚血肢の患者において、医師は診断後、閉塞又は狭窄した血管にバイパス術をはじめとする治療を滞りなく行うために、あらゆるリスクを想定し治療方針を策定する。看護師の業務は診療の補助と日常生活の援助だが、診療の補助が拡大され一部の医行為が施行可能となった。これらによって齎されたメリットは、毎日の医師とのカンファレンス参加により下肢の病状を的確に共有把握することで、タイミングを逃すことなく足部創への介入が可能である事と、治療とケアの視点が融合されることである。創傷管理領域で実践する看護師特定行為は主にデブリードマンと陰圧閉鎖療法であり、医師を待つ必要がなく患者のスケジュールに沿った介入が可能である。陰圧閉鎖療法において治療的側面のみではなく、施行によるスキントラブルに対し、基本的なケアである毎日の洗浄や観察、保湿の徹底により予防が可能となり、演者が介入開始した2016年の1年間でスキントラブルによる中断が14例中6例だったのに対し、2018年度は32例中3例と減少し創傷治癒の向上に寄与した(P<0.05; χ^2 検定)。

日常生活の援助は治療の意欲を維持する患者教育も含まれるが、客観的な成果は見えにくい。看護師の役割が齎す成果は数値で測れないことが多いため患者側の主観的情報に偏りやすい。感情移入にならずに患者に寄り添うには問題の焦点化と、それを多職種と共有するための共通言語として治癒期間短縮等の数値による成果が求められていると考える。